

バスタ新宿の利便性向上と機能面・ 管理運営面の強化に向けた課題と対応

関東地方整備局東京国道事務所

- 「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン(令和3年4月 国土交通省)」を基にバスタの機能を整理。
- 第1回検討会（令和6年3月19日）における意見を踏まえて、今後の利便性向上と機能強化について検討。

【バスタに求められる機能面から見た運営管理に係る課題について 1/2（第1回検討会資料一部再掲）】

バスタに求められる機能	課題	委員からの意見
基本機能 バスやタクシー等への乗降や乗降までの移動・待合、また、車両の拠点内の移動や停留・待機、交通ターミナルの運営等、交通拠点が備えるべき基本的な機能	○昼間のバスバースの有効活用を図られていない	① 空き枠を活用 することは大事なこと。 ②バスタ新宿から グレードの高い観光バス を発着させことができると「ばす旅」のイメージアップにつながる。 ③日中帯は高速バスの需要構造から空いているのが実情である。
	○コロナ禍の影響が完全に回復していない	④地域との繋がりに資する 高速バス を利用した「ばす旅」を広めていくべき。 ⑤交通弱者が迷わず目的地に到着できる「ばす旅」の利便さを伝え、 地方への観光産業活性化に寄与 できるとよい。 ⑥需要としてどの方面、どこが発着、どの時間帯といったところで 潜在的な需要 が拾えていないか、供給面では 行き先のニーズ などについて、 動的に動いていくべき 。 ⑦どんな人が乗っているのか、既存の鉄道や航空輸送との競争関係が変わっているのか、どの交通モデルで移動する選択肢を取られているのか、 コロナ後の需要構造をよく分析 。
サービス機能 交通拠点を利用する歩行者の利便性向上に係る各種サービスの提供を行うための機能	○利便性向上に資する新たな施設の設置	⑧バスタ新宿だけでなく 新宿駅周辺の外側からも収益を呼び込むような活用 をされることで、経営を頑健とすることを検討するべき。 ⑨タクシー乗降場付近の 空きスペースに第二のコンビニを置く など有効活用できると良い。 ⑩維持管理費や 中長期的な修繕費も生じるという点では、収益のためにも空きスペースの活用 は必要。 ⑪ デジタルサイネージは地域の情報発信として有効 、外国人向けに 英語での情報発信等 を検討するべき。

- 「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン(令和3年4月 国土交通省)」を基にバススタの機能を整理。
- 第1回検討会（令和6年3月19日）における意見を踏まえて、今後の利便性向上と機能強化について検討。

【バススタに求められる機能面から見た運営管理に係る課題について 2/2（第1回検討会資料一部再掲）】

バススタに求められる機能	課題	委員からの意見
地域の拠点・賑わい機能 まちづくりと連携し、賑わいのある空間を創出するための機能	○地域の情報を発信する設備や機会が不足 ○甲州街道等の活用	⑫待合所設置のデジタルサイネージで地域の情報発信を行っている。 ⑬バススタ新宿という有効な場を活用して、バススタ新宿と繋がる都市の 地域観光イベントを、地方の観光協会や自治体、バス会社などが連携した開催 を検討すべき。 ⑭貨客混載もターミナル機能の1つとして取り組んでいきたい。
防災機能 交通拠点の交通機能を災害時においても確保するための機能。	○災害時の情報提供設備が不足 ○災害時の役割整理とそれに向けた対応の整理	⑮情報提供や代替輸送もあるが、 バススタ自身が被災したときのことをもう少しどこかの形で考える。 ⑯待合所設置のデジタルサイネージで災害時の情報発信を行っている。
交通結節機能 交通拠点における多様な交通モードが一体となって機能するよう、交通モード間を円滑に接続するための機能	○バススタ周辺の回遊を促進するシェアモビリティ等との結節を考慮	⑰バスターミナル内にシェアモビリティが入ってくると交通事故の心配がある。

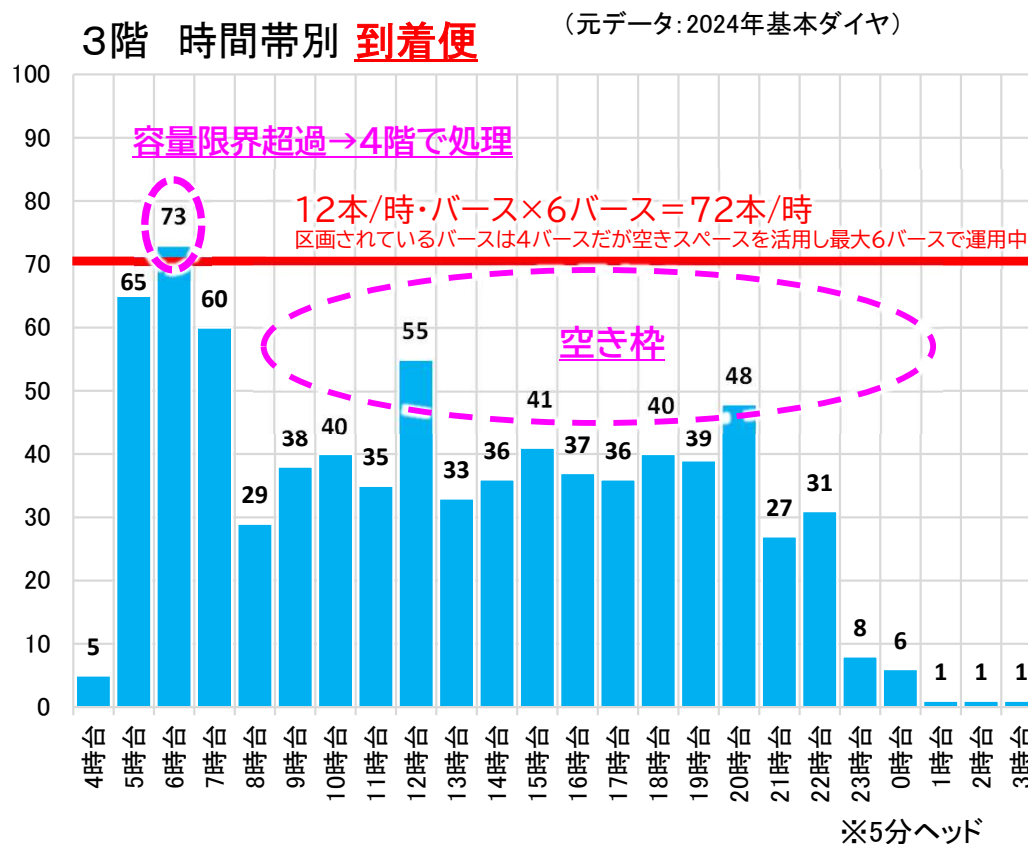
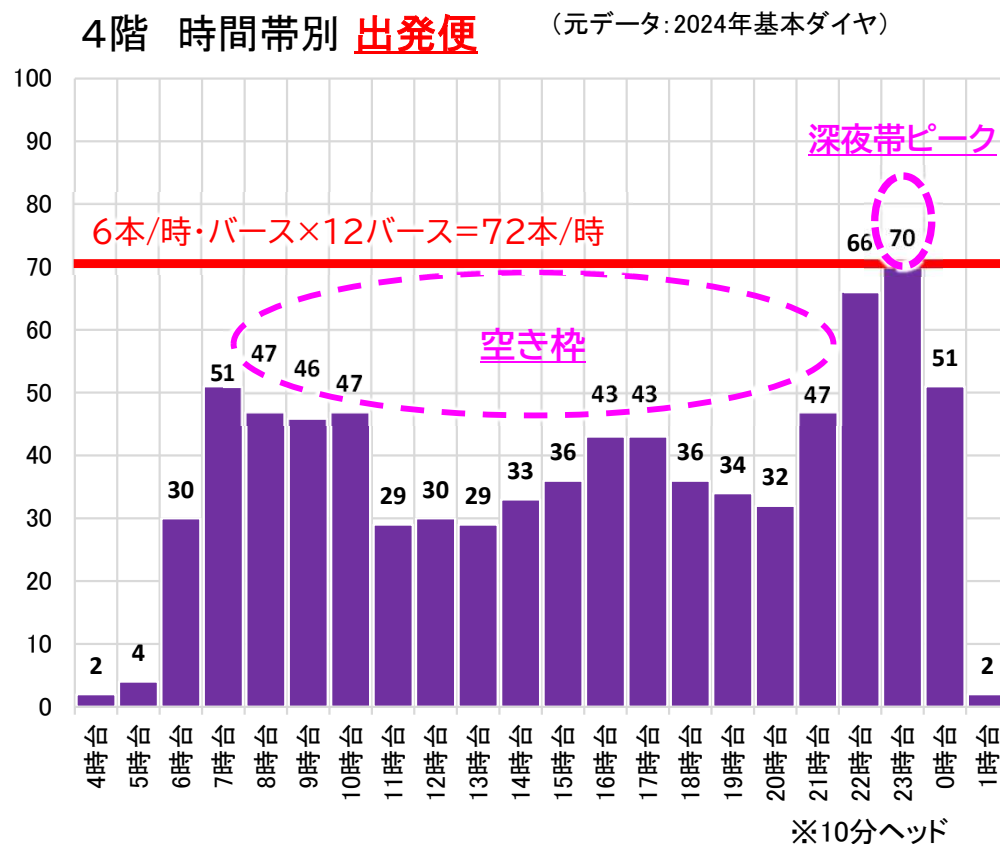
課題に対する対応・取組

(課題: 昼間のバスバースの有効活用を図られていない)

昼間の空き枠等の有効活用

- 時間帯別の発着便状況について、出発便は22時、23時台の深夜帯がピークとなっており、72本/時(※出発便は10分ヘッド)のバスの容量に対して、昼間の時間帯は空き枠がある状況。
- 到着便は朝6時台がピークであり、3階(6時台 73本/時(※到着便は5分ヘッド))のバスの容量が不足する際は、4階の出発バスの空き枠で処理している。

■時間帯別の発着便状況



※遊休となっている空き枠の有効活用は必要であるが、オペレーション上定時発車を前提としている高速路線バスの発着に支障がないことが肝要である。

対応案 I

都内周遊等の定期観光バスの乗り入れ

【ヒアリング調査】

【定期観光バスに関する内容】

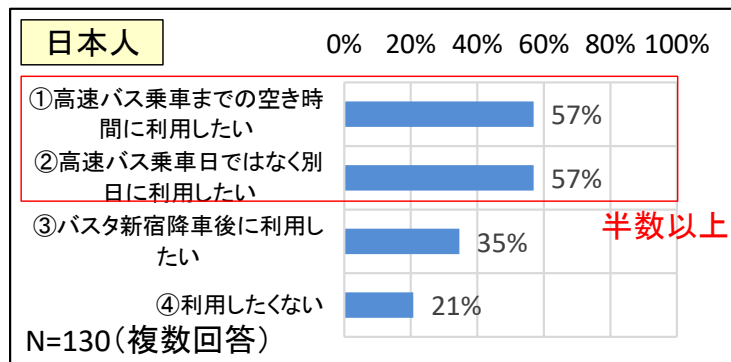
○都内の定期観光バスは外国人に人気であり、バスタ新宿からのバス便の問合せが多い。

(東京観光情報センター)

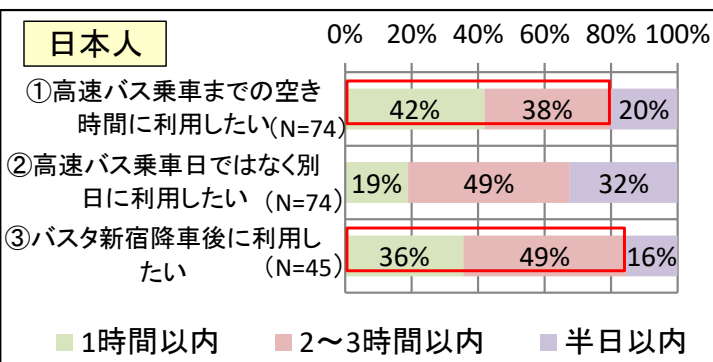
○日本人・外国人ともに定期観光バスを利用したい人は多く、特に外国人の7割以上が利用したいと回答。また、利用希望時間は、約8割の人が1時間以内か2～3時間以内を利用したいと回答。

(バスタ新宿利用者アンケート調査)

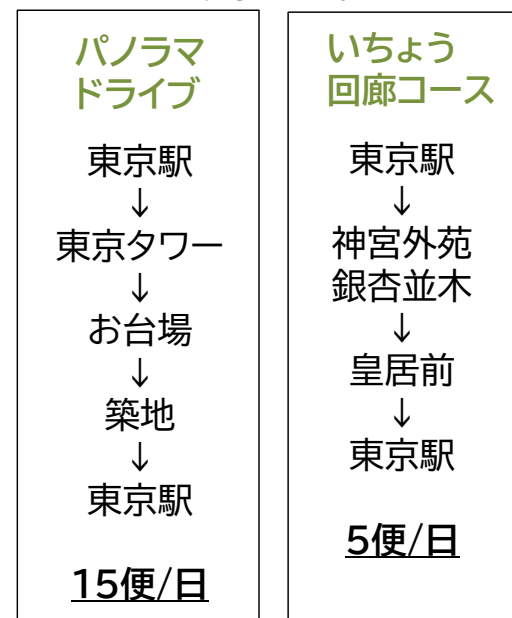
【バスタ新宿発着 定期観光バスの利用意向】



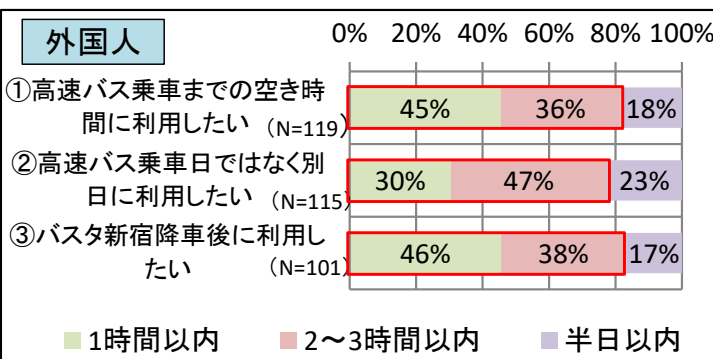
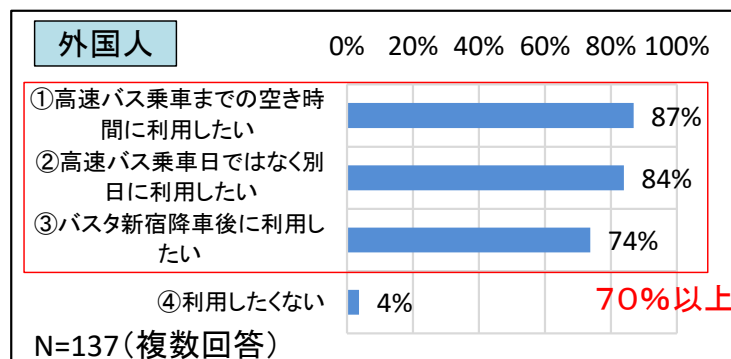
【定期観光バスの利用希望時間】



◆所要時間1時間での定期観光バスプランの事例 (東京駅発着)



パノラマドライブプランは
9:00～16:30は30分間隔で運行



【都内周遊の定期観光バスの利用状況】

(株式会社はとバス プレスリリース 2024年7月11日)

株式会社はとバス(東京都大田区／代表取締役社長 武市玲子)の2023年度(はとバス会計年度2023年 7月1日～2024年6月30日)の東京観光ご利用者数(外客コース含む)は555,268名(速報値)で、前年度の約1.3倍となりました。

【新宿駅周辺に発着する都内周遊定期観光バスの乗り場状況】

事業者	乗り場	運行状況	乗り場の状況
バス事業者A	新宿駅東口 (駅から徒歩1分)	8時台(2方面) 1日2便 週4日運行	・屋外(上屋なし) ・トイレ、ベンチなし
バス事業者B	新宿駅南口周辺ホテル (駅から徒歩5分)	10～17時台(1方面) 1日6便 毎日運行	・屋外(上屋あり) ・トイレ、ベンチなし



事業者A 新宿駅東口乗り場状況



バス事業者A

新宿駅東口路上バス停
を利用しているが、待合
空間のあるバスタ新宿を
利用できれば良い。

【隣接する観光情報センターとの連携】

○東京都、新宿区等の観光案内と連携をはかり、東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)等の定期観光バスの新たなルート設定を検討する。



東京都観光情報センター



新宿区観光案内所



東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)防災体験学習の状況



対応案

○空き枠の有効利用として、これまでの高速路線(都市間)バスだけでなく、国内や海外からの利用者ニーズに応じた都内周遊の定期観光バスの乗り入れを行い、バスタ新宿を都内観光の新たな拠点とする。

対応案Ⅱ

日中に未利用の待機バースを駐車スペースとして活用

【ヒアリング調査（近傍を往復する路線のバス事業者）】

バスタ新宿へ到着（お客様降車）後、次のバスタ新宿から出発までの待機時間が生じるが、周辺に大型車対応の駐車場が少なく、満車の場合が多く困っている。

駐車場不足によって想定される問題

- バスタ新宿付近での路上駐車
- 遠距離にある駐車場までの往復による労働時間増
（令和6年4月施行、自動車運転業務時間外労働上限規制）

バスタ新宿周辺の大型駐車場



対応案

- 路上待機による通行支障や待機による労働時間の課題の対応を図るため、空き待機バースを有料駐車場として有効活用を行う。

（実証実験として2台分の運用を開始。今後、利用状況、バス事業者へのヒアリングを行い、更なる有効活用を図っていく。）

近傍を往復する路線の事例



待機バース(4F)の利用状況



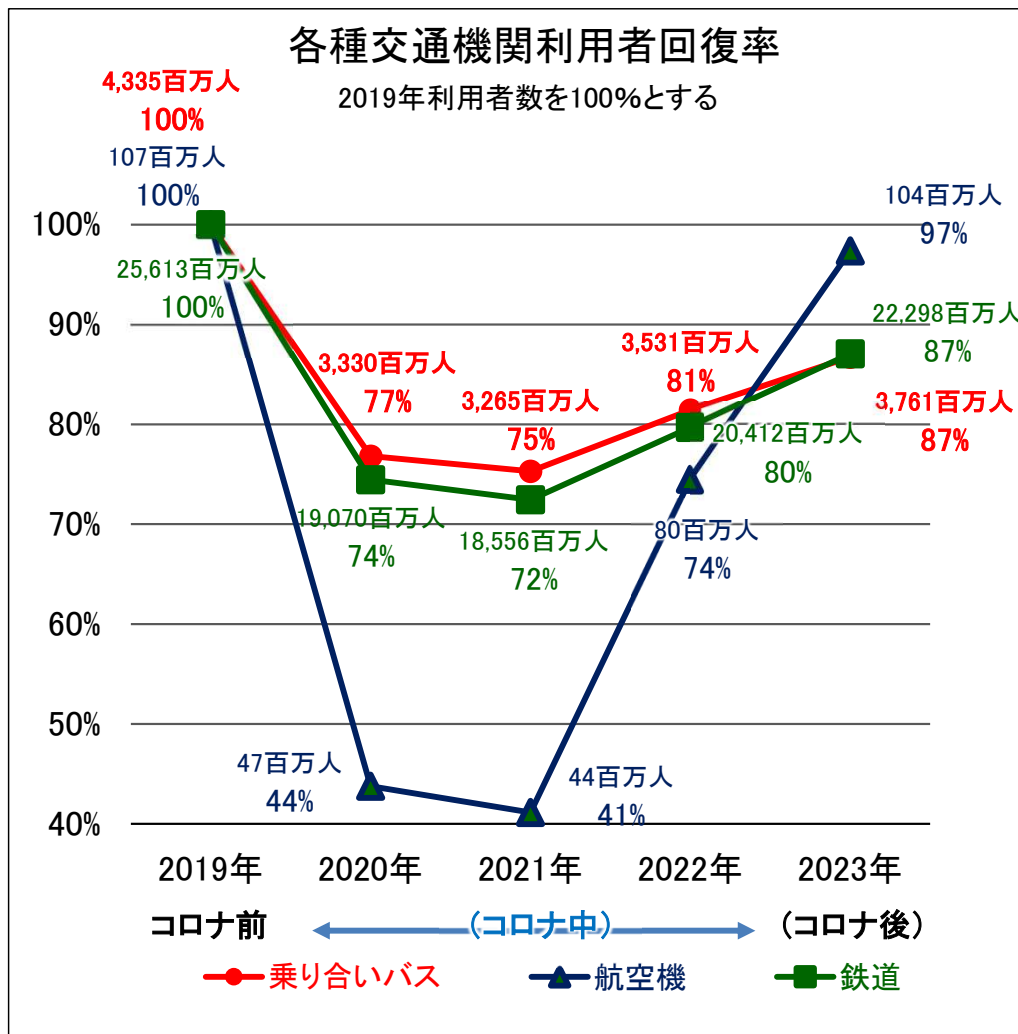
課題に対する対応・取組

(課題: コロナ禍の影響が完全に回復していない)

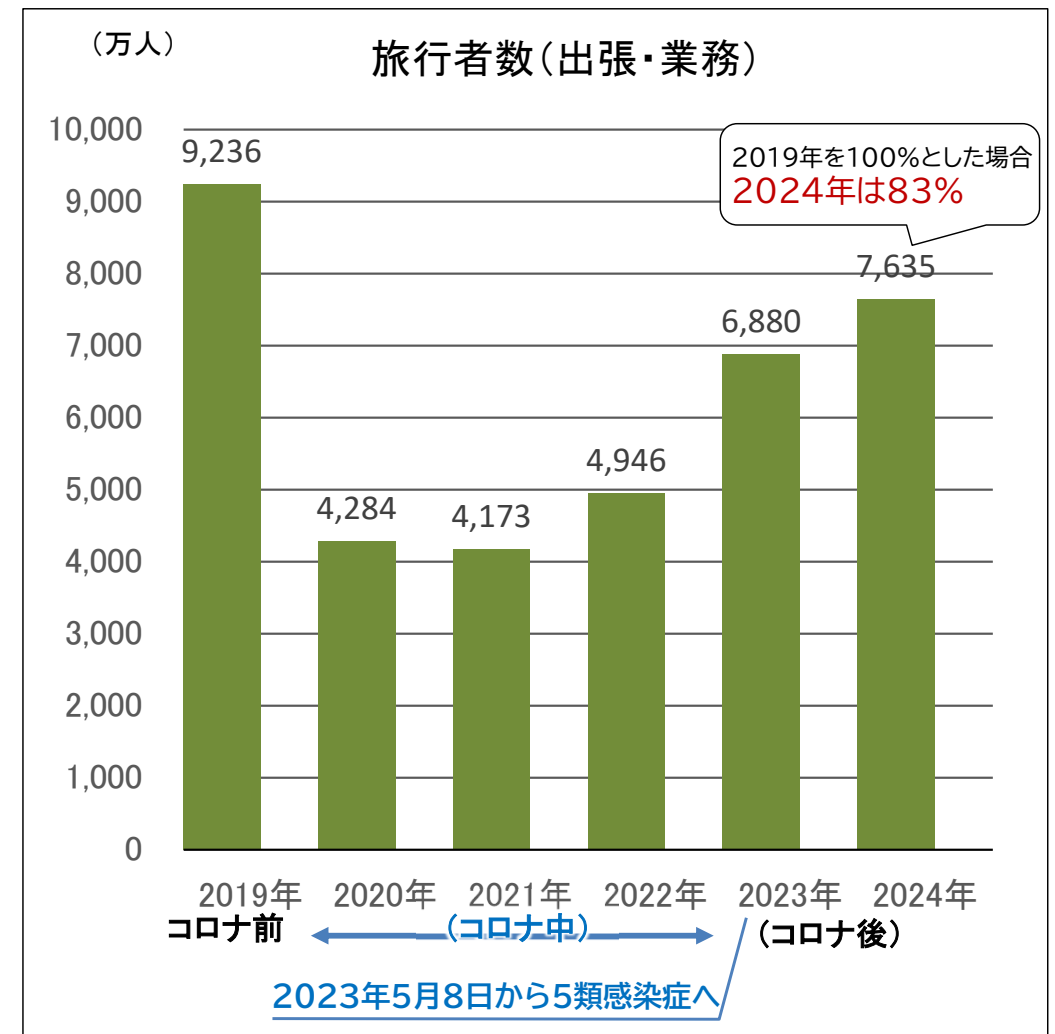
利用者数増加のための対応

【各交通機関利用者数、旅行者数(出張・業務)の現状(2019年コロナ前との比較)】

- 各種交通機関の利用者数はコロナ前(2019年)と比較し、航空機は約97%まで回復しているが、乗合バス(高速バスを含む路線バス)、鉄道は9割弱の回復となっている。
- オンライン化により減少が想定されていた出張・業務での旅行者数(全交通機関含む)は、コロナ前の8割程度まで回復している。



出典:国土交通省 航空、鉄道、自動車輸送統計速報をもとにグラフ化

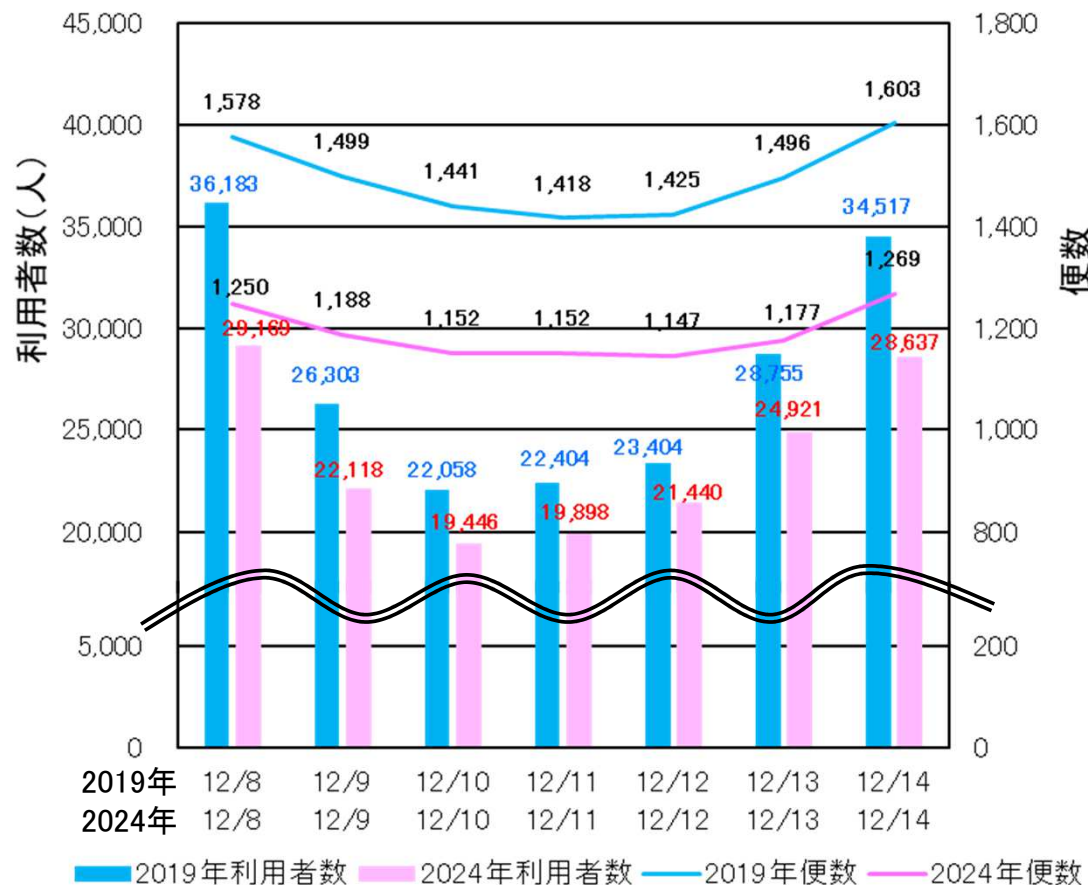


出展:内閣府 RAIDA データ分析評価プラットフォーム基にグラフ化

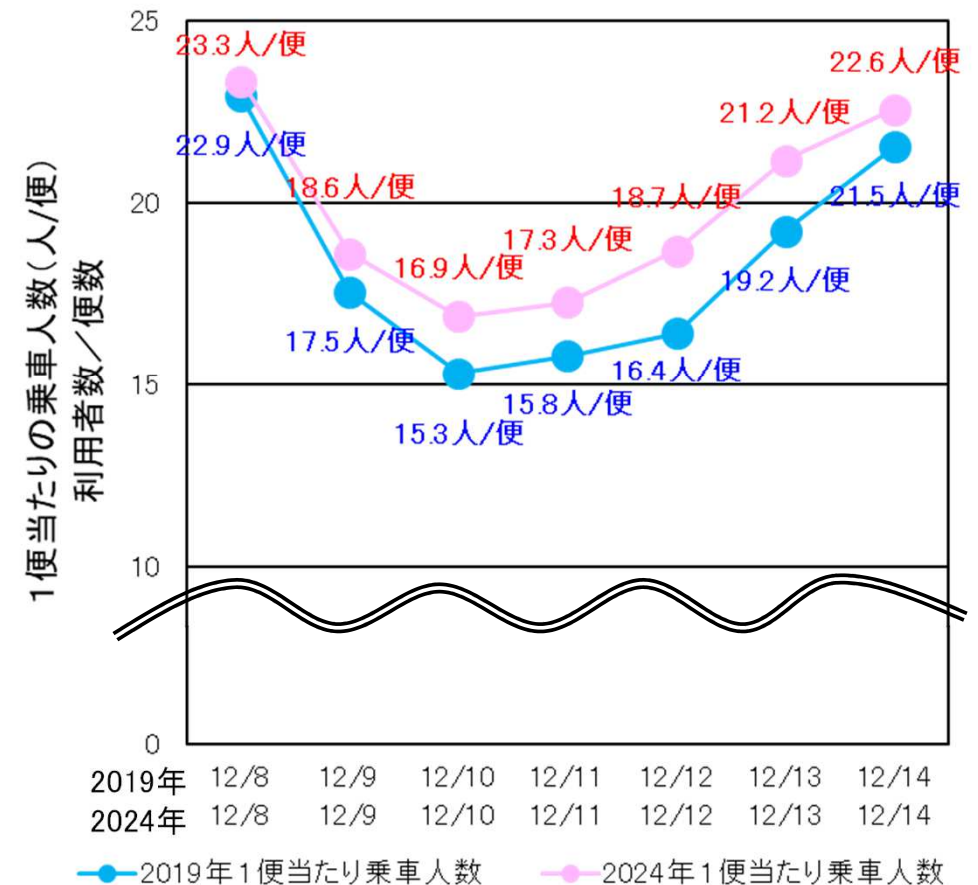
【バスタ新宿利用者数、便数の現状(R1とR6の比較)】

○2024年(令和6年)の利用者数、便数は、コロナ前2019年(令和元年)に比べ、約8割程度のみの回復だが、1便(バス1台)当たりの乗車人数(乗車率)は、コロナ前を上回っている状況。

2019年、2024年利用者数と便数同日比較の変遷



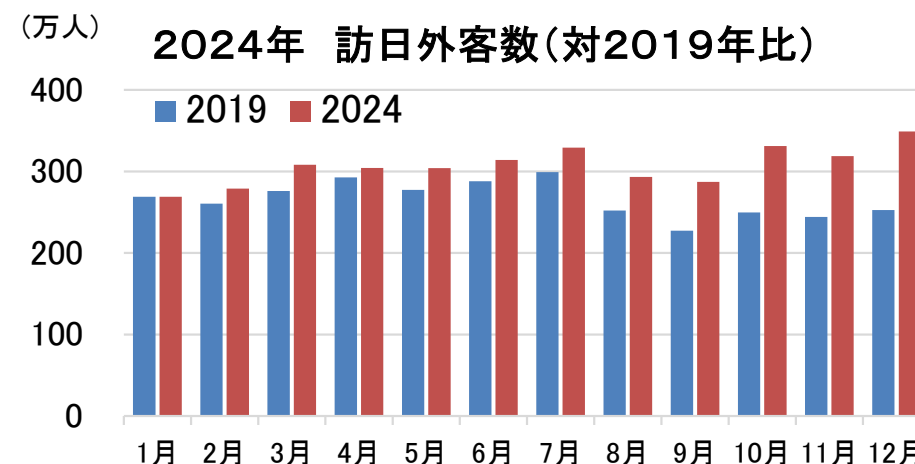
2019年、2024年1便当たりの乗車人数の変遷



【訪日外客数の状況】

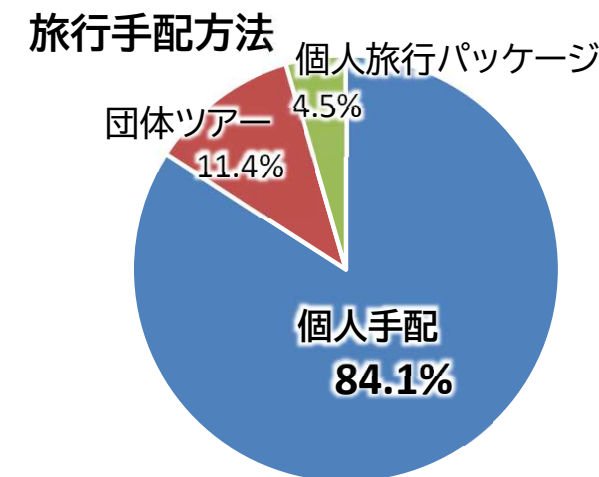
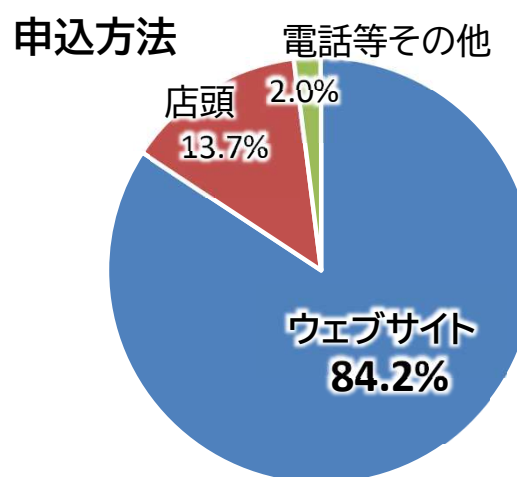
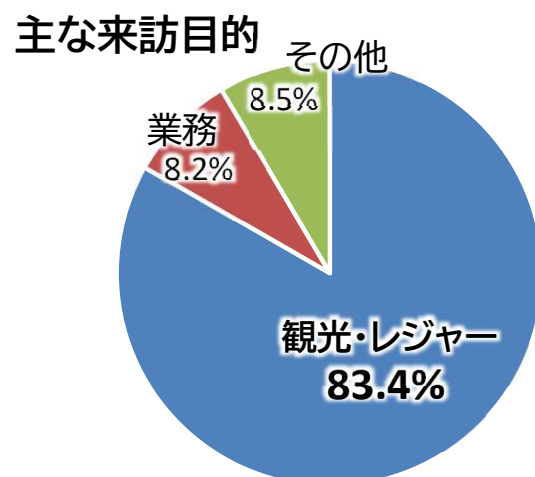
(JNTO 日本政府観光局 プレスリリース 2025年1月15日)

2024年12月の訪日外客数は3,489,800人で、前年同月比では27.6%増、2019年同月比では38.1%増と過去最高であった。2024年10月の3,312,193人を上回り、単月過去最高を記録した。また、2024年の年間訪日外客数は36,869,900人で、前年比では47.1%増、2019年比では15.6%増と、過去最高であった2019年の31,882,049人を約500万人上回り、年間過去最高を更新した。



出典: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計 2024年12月推計値」をグラフ化

【訪日外国人の消費動向 観光庁2024年7-9月期】 出典: 観光庁「訪日外国人の消費動向報告書」をグラフ化



対応案Ⅲ

インフラツーリズムの取組

【インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトによる取組】

- 令和6年4月にバスタ新宿はインフラツーリズム魅力倍増プロジェクトのモデル地区に選定。
- 「バスタ新宿のご案内インフラツアー」と「バスタ新宿乗り入れ高速バスの利用促進」という2つの取組を社会実験として実施。

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト ～新たなモデル地区3箇所の概要～

別紙
国土交通省

○首都圏外郭放水路(埼玉県春日部市)

- ・ 周辺の中小河川の洪水を地下トンネルを通して江戸川に排水する世界最大級の地下放水路
- ・ 地域周遊につながり、インバウンド対応を含めたインフラツーリズムの更なる発展を検討



○バスタ新宿(東京都渋谷区)

- ・ 日本最大級の交通結節点事業として、高速バス・タクシーの乗車場や歩行者空間などとJR施設を一体的に集約し、新宿駅付近の線路上空に整備
- ・ 施設には高速バスが1日1,200便、300都市に就航し、そのオペレーション等の施設自体でのインフラツーリズムや高速バスを通じた地方誘客について検討



○温井ダム(広島県山県郡安芸太田町)

- ・ 西日本で1番の高さ(アーチ式ダムでは、黒部ダムに次ぐ全国2番目)
- ・ 中国地方初のモデル地区となり、将来的な河川空間のオープン化を見据え、ダムツアーに加え、湖面や周辺活動の活性化を検討



Action

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトを起点にバスタ新宿の認知度の向上を図るとともにバスタ新宿が持つ全国高速バスネットワークを活用した地方への送客のために国内の高速バス乗車と地域の観光商品の予約が国内のみならず、世界中どこでもできる仕組みを構築

目指すべき方向性

バスタ新宿の更なる認知度の向上、高速バスを利用したバス旅の促進および利便性を向上させロードファクターの向上、都市部に偏在する観光客を各バス会社の地元へ送客。

バスタ新宿のご案内
インフラツアー

+

バス旅、地方観光支援



令和6年4月9日 プレスリリース抜粋

は関東地方整備局管内のモデル地区

【インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトによる取組】

バスタ新宿のご案内インフラツアーによる情報発信

バスタ新宿の認知度の向上を目的として、インフラツアーでは、「バスタを温めて新しきを知る」をテーマに知られざる経緯、建設、構造、効果、役割などを映像や施設内を巡りながら、普段は聞くことのできないバスタの秘密や魅力を紹介。また、足がすくむ上空170mからバスタ新宿を見下ろす等の特別なシチュエーションをVRで体験。



なぜバスタ新宿は誕生したのか？



建設当時の苦労話とは？



バスタ管制室の苦労話とは？



バスタ新宿を支える人口地盤とは？



上からバスタ？



フォトスポット

【インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトによる取組】

バス旅による更なるロードファクターの向上および地方観光支援

- バスタ新宿オンライン販売プラットフォームを導入し、販売元（バス会社や着地型観光事業者）と海外OTA※を含む販売先を連携させ、（オンライン販売プラットフォームの構築）高速バスの乗車率の向上や地方へのバス旅の促進を図る。
- 高速バスと着地型観光商品のセット購入により、乗り継ぎ等もなく外国人や高齢者なども迷わず目的地に到着が可能になるほか、全国各地の地元に通じた人たちが作る観光商品により、顕在化していない需要の掘り起こしが期待できる。

バスタ新宿 オンライン販売プラットフォーム 運営会社（旅行代理店等）※公募を想定

販売元

●バス会社



高速バス

●地域・着地型観光



観光施設



アクティビティ

販売先



旅行会社・OTA※など
国内・海外のあらゆるチャネル

B2B（企業向け）予約やB2C（消費者向け）直販

展開①

予約プラットフォームに乗車券、観光商品を掲載

予約プラットフォームにバス乗車券や着地型観光商品を掲載。バスタ新宿のインフラツーリズムと連携した情報発信を行い、高速バスの乗車率の向上、地方へのバス旅の促進を図る。

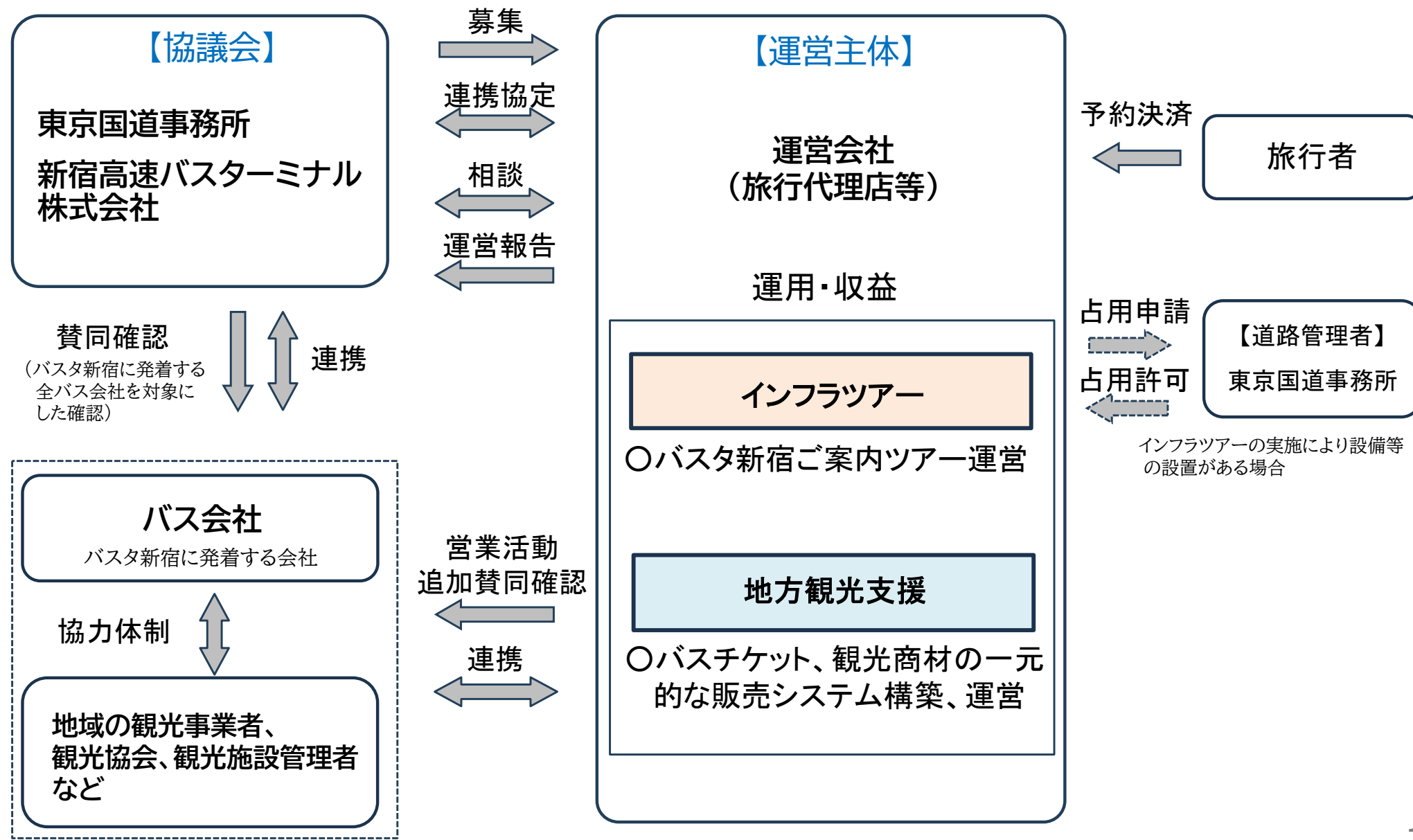
展開②

海外OTAの販路拡大、国内の乗車予約を世界中で展開

来日前の高速バス乗車券、観光商品の予約・決済が可能。訪日旅行の際のバス利用を促進、また決済も完結させることで、販路の拡大、利用者とバス会社の負担軽減を図る。

【インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトによる取組】

バス新宿における事業スキーム(案)



課題に対する対応・取組

（課題：利便性向上に資する新たな施設の設置）

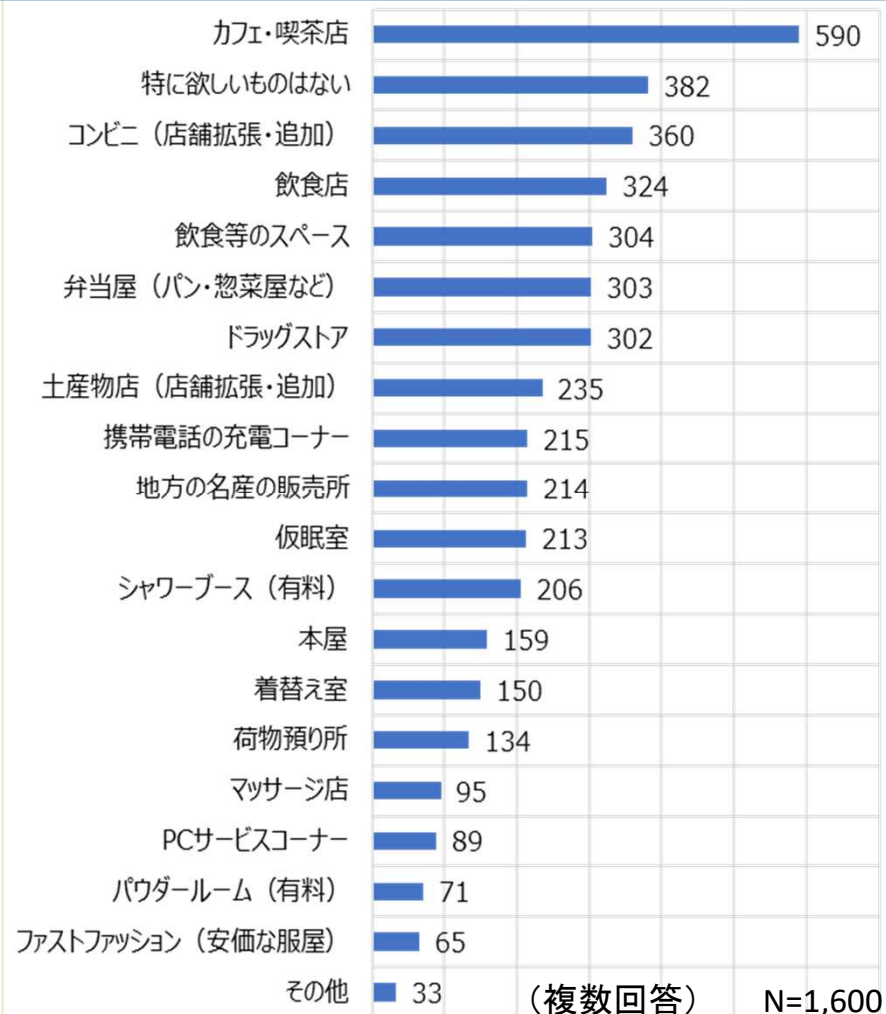
需要調査に基づく利便増進施設の整備

対応案Ⅳ

需要の多い利便増進施設の増設

- アンケート調査では**バススタ新宿に新しく整備して欲しい施設としてカフェ等の飲食関連、ドラッグストアなどの物販関連の回答が多く、インフォメーションでは、女子トイレやコインロッカーの問合せも多い。**
○待ち時間に有意義に過ごせる施設や混雑時不足しがちな施設を考慮し検討。

バススタに新しく整備して欲しい施設(2024年11月WEB調査結果)



バススタ新宿3Fの改修案

- ・待ち時間を有意義に過ごせる施設や混雑時、不足しがちな施設等の需要を考慮し総合的に検討。



(甲州街道)



事例イメージ



対応案Ⅳ

需要の多い利便増進施設の増設

- コインロッカーの利用は4時間未満が半数を占め、短時間利用が多い。また、利用者が多く、ほとんど空きがない状態となっている。(新宿高速バスターミナル(株))
- 4階の空きスペースに新たなコインロッカーの増設を進めるとともに、3階も利用状況等を見ながら検討していく。

既存のコインロッカー(142個)の位置



コインロッカーの増設案



課題に対する対応・取組

（課題：地域の情報を発信する設備や機会が不足）

**甲州街道等を
活用した地域情報発信**

対応案V

情報発信設備の強化と修繕等の対応

- 地方観光情報や地域のイベント情報、災害時の情報提供等に活用するため、バススタ新宿の壁面や4F待合室等にデジタルサイネージの増設を検討する。
- また、広告枠を設け、その収益によりバススタ新宿の施設の修繕等に充当する。



建物壁面への設置候補箇所



待合室のデジタルサイネージを観光情報広告として活用(実施中)

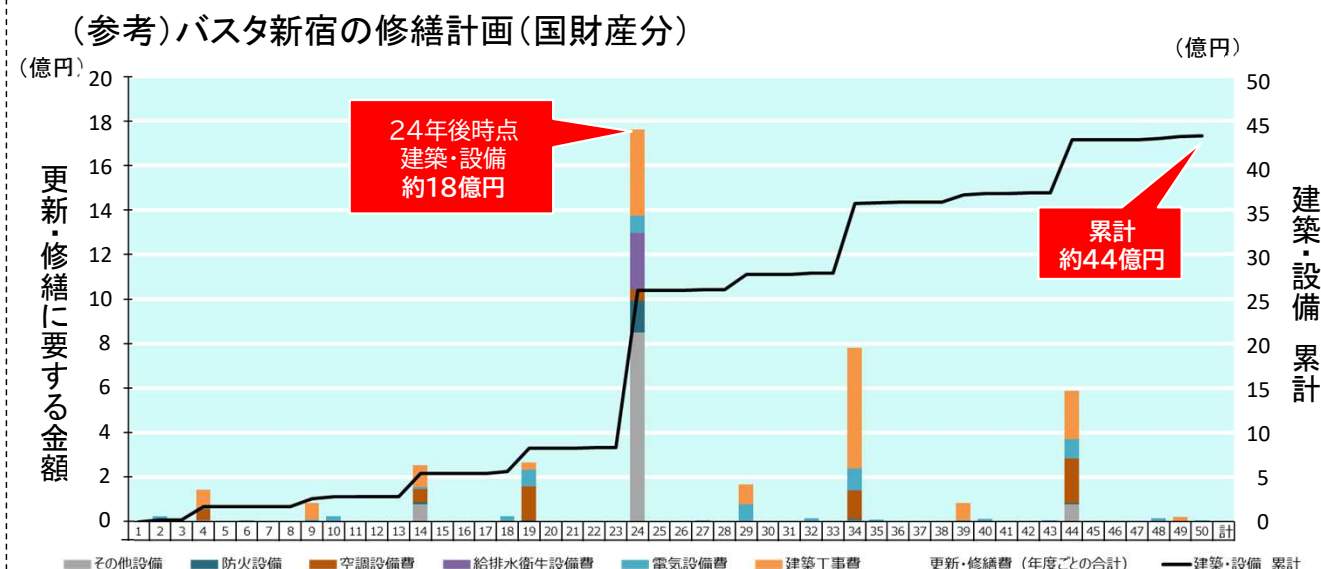
建物壁面にデジタルサイネージを設置。
広告枠を設け、その収益をエスカレーターやエレベーター、空調等、施設の修繕等に充当する。



エスカレータ



エレベーター



- 現在、バススタ新宿の待合室にある3つのデジタルサイネージで、観光情報や災害時の情報を提供。
- 貨客混載のPRイベントに合わせて地方PRを掲示したり、増加する外国人観光客向けに外国語表示を増やしていく。
- 入手したい情報は、「バスの到着時刻」「新宿駅の(電車)運行」「トイレの待ち時間」「観光地情報」「発災時の避難情報」などの要望が多かった。(WEBアンケート)
- さらにデジタルサイネージの増設も検討していく。

■観光情報の発信

- 現在もデジタルサイネージを使用して、高速バス路線沿線の観光情報の発信を行っている。
- 事例として、3月から4月にかけて外国人観光客にも人気の高いコンテンツである「桜」を軸とした情報発信を実施。

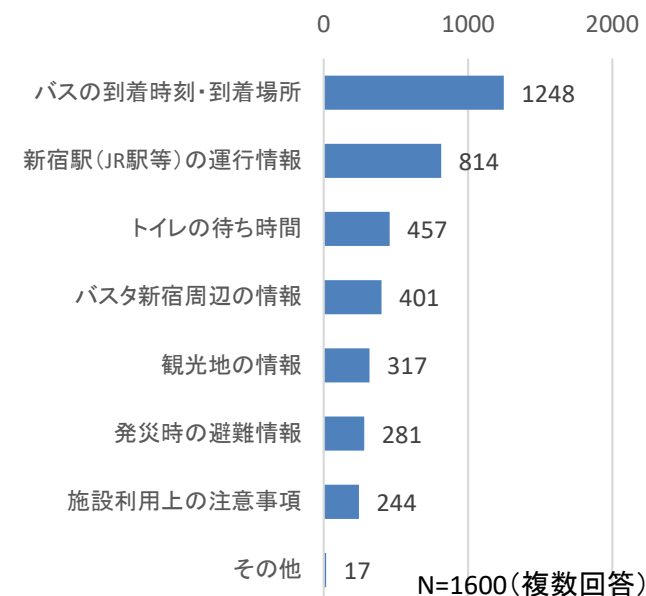


地域観光情報
(長野県小諸市)

WEBアンケート結果

＜デジタルサイネージで入手したい情報＞

- R4年度に実施したWEBアンケート調査では、バススタ新宿でデジタルサイネージで入手したい情報として、『バスの到着時刻・到着場所』『新宿駅(JR駅等)の運行情報』等に対する要望が多い。



(その他)

- ・おすすめのお土産
- ・途中の道の混雑具合
- ・到着地の情報
- ・コインロッカーの空き情報
- ・隔地の天気予報
- 等

対応案VI

貨客混載を活用した地方PRイベントの継続

○地方観光、地域特産品PRを通じ、高速バス利用の増加に繋がる貨客混載事業および甲州街道歩道、ペンギン広場、バススタ新宿等の利活用を継続する。

ブルーベリー納品・積み込み(木更津市内)



小湊鐵道バスでの運搬



荷卸し



ペンギン広場にて販売



2024年7月22日(月)小湊鐵道・木更津市

木更津市の特産であるブルーベリー(有機栽培)を貨客混載で運搬し、2Fペンギン広場にて販売、ブルーベリー摘みの観光PRと兼ねてイベントを実施。

「約200名の来場者があり、ブルーベリーは完売。新宿駅前という場所から、付加価値を乗せて販売できた。」(木更津市・小湊鐵道担当者からのヒアリング)

積み込み(館山市/佐野市)



JRバス関東での運搬



荷卸し



バススタ前歩道(甲州街道)にて販売



2024年11月8日(金)JRバス関東・館山市/佐野市

鐵道会社によるイベントに合わせて、館山市・佐野市からの特産物を貨客混載で運搬し、バススタ新宿前歩道にて販売を実施。

「多くの人を訪れる新宿駅で出展・販売を行い、たくさんのお客様から関心を得られた。」(館山市担当者からのヒアリング)

対応案

○実施事例を他のバス会社等へ情報提供するなど取組の拡大を図る。

課題に対する対応・取組

(課題: 災害時の情報提供設備が不足)

災害時の役割整理と対応

対応案Ⅶ

バススタ新宿BCP(事業継続計画)に沿った活動計画

- 「周辺の一時的滞在施設が開設されるまでの利用者の待機場所として機能し、その後、利用者の避難誘導を行うこと」が災害時のバススタ新宿の役割。また、鉄道運休時に代替輸送を実施することを想定。
- バススタ新宿自体が被災した際は、周辺道路等に臨時発着場を確保することも想定。
- あらゆる災害時を想定し、バススタ新宿BCPの熟度を高める。

時間	発災直後	6時間後	7日後以降	〇日後以降
状況	道路: 通行不可 鉄道: 運休	道路: 通行不可(啓開作業開始) 鉄道: 運休	道路: 主要道路の一部規制解除 鉄道: 運休	道路: 規制解除 鉄道: 概ね復旧
バススタ新宿に求められる機能	 利用者の一時的待機  デジサイによる避難情報発信 ・利用者の一時的待機・誘導 ・情報発信機能	 	R3. 2. 13 福島沖地震での対応 (バススタ新宿)  R3. 2. 16 8:00出発のJR東北あぶくま1号 H30.7豪雨での代替輸送バス (呉駅周辺)  ・臨時便運行機能 ※鉄道等の代替輸送	  ・通常運行(一部臨時運行)

○東京都、新宿区、渋谷区の防災担当との協議結果 (バススタ新宿の災害時の役割について)

- ・発災時に利用者の安全確保のため、利用者を一時的に待機させ、その後速やかに避難場所へ誘導するという方針は、集客施設としての最低限の役割は果たしていると言える。(東京都)
- ・災害用備蓄品が保管されていないことや、非常用電源の稼働時間の関係上、バススタ新宿を一時滞在施設に指定できないのであれば、避難誘導していただくしかない。避難場所へ誘導していただいた後の帰宅困難者等の対応は東京都や新宿区の役割となる。(新宿区)
- ・新宿区と同様に、駅周辺から速やかに避難場所へ誘導することは渋谷区としても同様の考えである。バスによる鉄道の代替機能を果たすためにも、バススタ新宿内に利用者を滞在させることは望ましくないと考えられる。(渋谷区)

対応案Ⅷ

Webサイト、デジサイ等での災害時の情報提供の強化

○現在設置しているデジタルサイネージを用いて、バスタ新宿被災時、施設に人があふれる前に新宿中央公園等の避難場所へ速やかに誘導できるよう情報提供を行う。

○バスの運休情報等をホームページや運行掲示板等に提供する。

現在実施している災害時の情報（避難場所の英語表示、多言語放送）

- 災害発生時の**バス運行状況や避難所への避難等情報提供**については、待合室内3箇所に設置した**デジタルサイネージ**に加え、多言語による音声放送にて行っている。

**地震に伴う
運転取り止め**

2024年1月1日に発生した石川県能登地方を震源とする地震の影響により、バスタ新宿から北陸・上信越方面への高速バスに

「運休便」
が、発生しております。

運行の詳細な状況につきましては、ご乗車する各運行会社のホームページ等でお確かめください。

なお、バスタ新宿の案内板には、運行会社より事前に連絡があった場合に限り、「運休」の表示しておりますのでご注意ください。

こちらからもご確認ください



**Attention
Please !**

**Due to the Earthquake,
Some buses to
Kanazawa, Toyama
Fukui and Niigata
are cancelled.**

Please check
bus status board
for the latest information.

If you require
any further information,
you could contact
your bus company directly.



**地震発生！
グラッと揺れたら**

「ガラスから離れて頭を守ってください」
「慌てて外に飛び出さないでください」

最寄りの広域避難場所は
「新宿御苑」「新宿中央公園」です



Earthquake!

Please step away
from the windows and doors.
Cover your head.
Don't go outside.

Safety evacuation area
「Shinjuku Gyoen National Garden」
「Shinjuku Chuo Park」



出典：新宿高速バスターミナル(株)
提供資料

災害時の情報提供のイメージ

<鉄道事業者の取組>

- 鉄道事業者は、案内用ディスプレイで災害時の緊急ニュースを放映(JR東日本、JR西日本、東京メトロ、都営地下鉄、京成電鉄、小田急電鉄など)
- 東京駅八重洲地下街のデジタルサイネージでは、緊急地震速報や防災メールに連動した災害関連情報を自動配信

(災害時)



(イメージ映像)

出典：東京メトロ、ニュースリリース(2013.1.29)



対応案

○デジタルサイネージやホームページ、SNS等に災害時の情報や臨時便の運行情報等の提供を強化する。

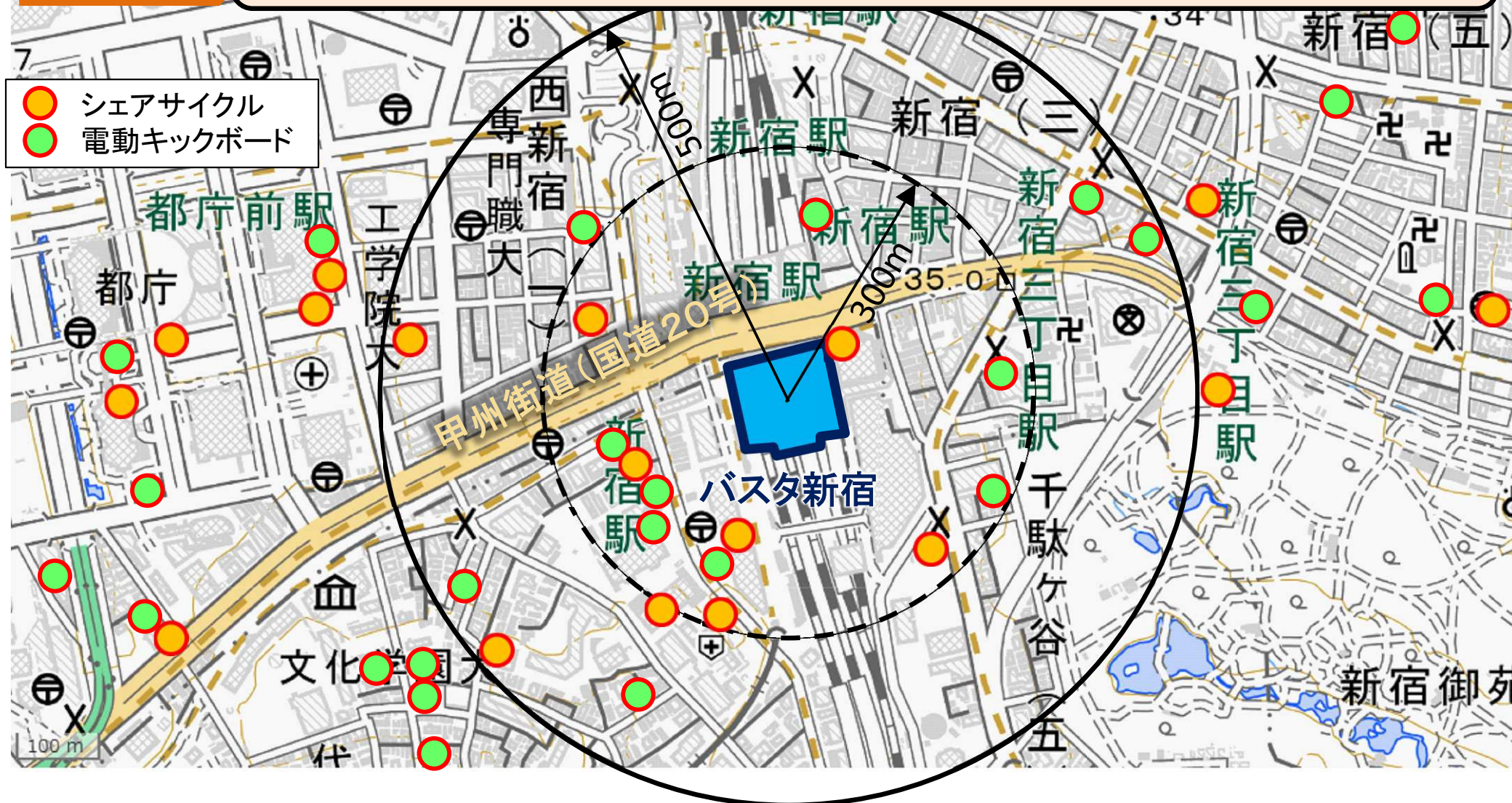
課題に対する対応・取組

(課題: バスタ周辺の回遊を促進する
シェアモビリティ等との結節を考慮)

シェアモビリティの需要調査と連携

対応案IX

今後の利用状況を見ながら、シェアモビリティとの連携を検討



- ・シェアモビリティポートはバススタ新宿周辺は少なく、少し離れた場所に置かれている。
- ・アンケート結果やシェアモビリティの設置状況などのデータを蓄積していき、今後の状況を注視しながら、ソフト面での連携を検討していく。

○現時点では、バスタ新宿におけるシェアモビリティ施設の需要は低い。

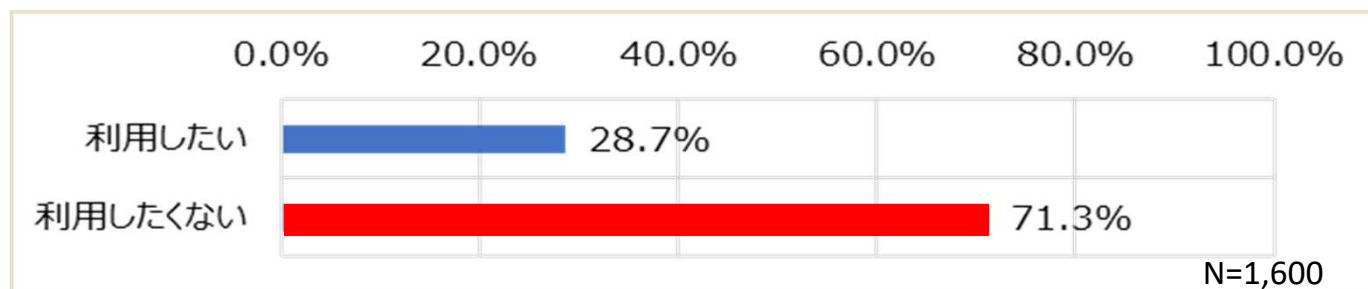
＜シェアモビリティ利用に関するWEBアンケート結果＞

■CASE_1 シェアサイクルが設置された場合の利用有無

Q1: 今後、バスタ新宿前の歩道上にシェアサイクル(※)が設置された場合、利用したいですか。

※料金: 15分100円～165円程度

A1:



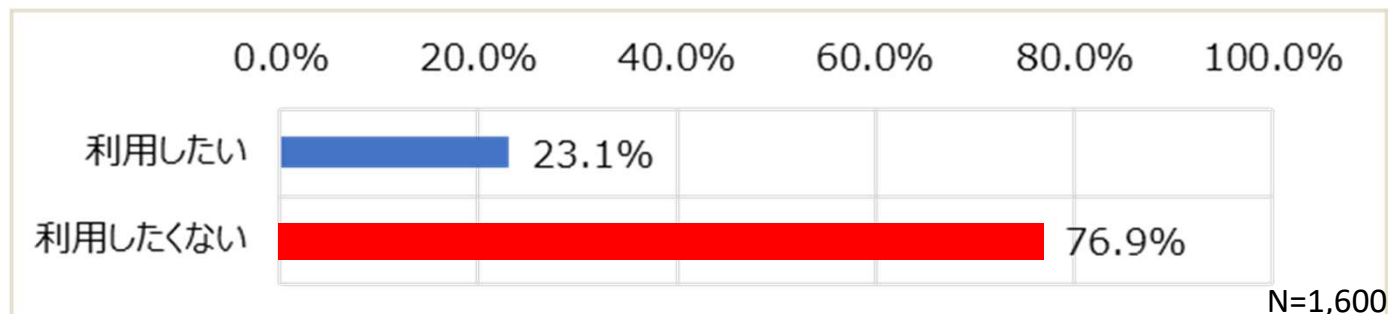
■CASE_2 電動キックボードが設置された場合の利用有無

Q2: 今後、バスタ新宿前の歩道上に電動キックボード(※)が設置された場合、利用したいですか。

※16歳未満利用禁止／料金15分275円程度／

自転車通行可能な歩道上では時速6km走行(車道では最高時速20km)

A2:



バスタ新宿の利便性向上と機能面・管理運営面の強化に向けた課題と対応 まとめ

課題	【対応案】
○昼間のバスバースの有効活用を図られていない	【昼間の空き枠等の有効活用】 <対応案Ⅰ> 都内周遊等の定期観光バスの乗り入れ ☐ 定期観光バスの乗り入れを行い、都内観光の新たな拠点とする ☐ 東京都、新宿区等、近隣観光案内と連携を図り、東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)防災体験学習ツアー等の定期観光バスの新たなルート設定を検討 <対応案Ⅱ> 日中に未利用の待機バースを駐車スペースとして活用 ☐ 空き待機バースを有料駐車場として有効活用を行う
○コロナ禍の影響が完全に回復していない ○利便性向上に資する新たな施設の設置 ○地域の情報を発信する設備や機会が不足 ○甲州街道等の活用	【利用者数増加のための対応】 <対応案Ⅲ> インフラツーリズムの取組 ☐ インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトによる取組 ・バスタ新宿の魅力を伝える施設案内ツアーによる認知度向上 ・バスタ新宿を起点とした「ばす旅」の促進 ・バス会社や着地型観光と海外OTAを含む販売先を連携させたプラットフォーム構築による高速バス乗車率の向上 利用状況調査 ・各種交通機関の利用者数は、コロナ前と比較して約9割回復 ・バスタ新宿に乗り入れるバスは、約8割回復 - また、1便あたりの乗車人数は、コロナ前を上回る ・2024年の訪日外客数は過去最高を更新(約3700万人) 【需要調査に基づく利便増進施設の整備】 <対応案Ⅳ> 需要の多い利便増進施設の増設 ☐ 空きスペースにて、待ち時間を有意義に過ごせる施設や混雑時不足しがちな施設を考慮し検討 ☐ コインロッカー等利便増進施設の増設 【甲州街道等を活用した地域情報発信】 <対応案Ⅴ> 情報発信設備の強化と修繕等の対応 ☐ 地方観光情報、地域イベント情報、災害時の情報提供等に活用するため、バスタ新宿壁面や待合室等にデジサイの増設を検討 ☐ 広告収益をバスタ新宿の施設の修繕等へ充当 ☐ 増加する外国人観光客向けに外国語表示を増やす <対応案Ⅵ> 貨客混載を活用した地方PRイベントの継続 ☐ 地方観光、地域特産品PRを通じ、高速バス利用の増加に繋がる貨客混載事業および甲州街道歩道、ペンギン広場、バスタ新宿等の利活用を継続する
○災害時の情報提供設備が不足 ○災害時の役割整理とそれに向けた対応の整理	【災害時の役割整理と対応】 <対応案Ⅶ> バスタ新宿BCP(事業継続計画)に沿った活動計画 ☐ 「周辺の一時滞在施設が開設されるまでの利用者の待機場所として機能し、その後、利用者の避難誘導を行うこと」が役割 ☐ 鉄道運休時、代替輸送を実施することを想定 ☐ バスタ自体が被災の際は、周辺道路等に臨時発着場を確保することも想定 <対応案Ⅷ> Webサイト、デジサイ等での災害時の情報提供の強化 ☐ デジタルサイネージやホームページ、SNS等に災害時の情報や臨時便の運行情報等の提供を強化
○バスタ周辺の回遊を促進するシェアモビリティ等との結節を考慮	【シェアモビリティの需要調査と連携】 <対応案Ⅸ> 今後の状況を見ながら、シェアモビリティとの連携を検討 ☐ アンケート結果や、シェアモビリティの設置状況などのデータを蓄積していき、今後の状況を注視しながらソフト面での連携を検討